

センターだより

第51号

平成30年12月19日発行

Aomori Prefectural School Education Center
青森県総合学校教育センター
〒030-0123 青森市大字大矢沢字野田80-2
☎017-764-1997 FAX017-728-6351

研修委員会から

教職経験**5年研修** 及び **中堅教諭等資質向上研修(旧10年研)** の制度が変わります

平成29年4月1日に教育公務員特例法の一部が改正となり、校長及び教員の資質の向上に関する指標の策定が義務づけられ、本県では今年2月14日に「校長及び教員の資質の向上に関する指標」を策定しました。

併せて、この法改正により、**中堅教諭等としての資質の向上を図るため、中堅教諭等資質向上研修が規定され、実施時期の弾力化を図る**ことが可能となりました。法改正の趣旨と本県の指標等を踏まえ、これまで当センターで実施してきた教職経験5年研修及び中堅教諭等資質向上研修(旧10年研)は、次年度以降、下表のように実施することとなります。

新制度における研修講座の名称 ※1	対 象 希望するいずれかの年度の1年間で受講	受講日数		新制度への移行に係る留意点	
		共通講座	選択講座	2019年度	2020年度
中堅教諭等資質向上前期研修 (現行制度の5年研修)	県内公立の小・中・高・特別支援学校の教諭等のうち、在職期間が、通算して4～6年を経過した者(採用5年目～7年目)	2 ※2	2 ※3	平成26・27年度採用者 (採用5・6年目) 及び過年度までの未修了者	平成26～28年度採用者 (採用5～7年目) 及び過年度までの未修了者
中堅教諭等資質向上後期研修 (現行制度の中堅教諭等資質向上研修(旧10年研))	県内公立の幼稚園(幼保連携型認定こども園含む)・小・中・高・特別支援学校の教諭等のうち、在職期間が、通算して11～14年を経過した者(採用12年目～15年目)	4 ※2	4 ※3	開催なし (過年度までの未修了者は、2020年度から受講する)	平成21年度採用者 (採用12年目) 及び過年度までの未修了者 (2021年度は、採用12・13年目)

※1 新制度における研修講座の名称は、「校種」や、教諭、養護教諭等「職」により異なります。詳細については、年度末発行予定の「2019年度研修講座案内」及び当センターWebページ等で確認して下さい。

※2 共通講座の受講日数は、現行制度から1日減じられています。校内又は園内での研修は前期が5日、後期が7日と規定されています。

※3 当センター以外の研修講座で、代替講座の指定を受けた講座の選択も可能です。

情報委員会から

情報委員会は、青森県教育ネットワーク(ASN)の運用・管理、センターWebページの技術支援、所内情報機器の管理などを担当しています。ここでは、平成30年4月から新しく更新となった情報機器及びASNのサービスについてご紹介します。Webページも随時更新しておりますのでぜひご覧ください。

私たち情報委員会は、情報セキュリティ管理に努め、円滑な業務遂行に向け安定した機器の稼働を支援しています。また、ASN専用の問合せ窓口にもなっており、県内の先生方を全力でサポートしています。

センターWebページ・情報機器・テレビ会議システムを更新しました



平成30年4月1日にデザインを一新しました。

各研修室のPCは、全てWindows10に更新、プロジェクトもより見やすくなりました。



iPadを20台、Windowsタブレット40台を配備しています。

テレビ会議システムは「LiveOn」に更新し、より使いやすくなりました。

Live On
VISUAL COMMUNICATION SYSTEM

【特徴】

高品質：クリアな音声となめらかな動画映像で会議が可能です。

高機能：便利で高機能なツールを多数搭載しています。

簡単操作：ブラウザから簡単に会議を開催できます。

遠隔授業などで活用が始まっています。

学力向上フォーラム・あおもり教育フェスタ2018の様子

11月16日（金）17日（土）に当センターにおきまして、学力向上フォーラム及びあおもり教育フェスタ2018が開催され、2日間で約350の方がセンターを訪れました。新学習指導要領や各種研究等に関わる多くの情報交換がなされ、活気あふれる催しとなりました。多数の御来場ありがとうございました。



➤ 研究員研究発表

学力向上フォーラムにおいて、当センター2年目研究員がこれまでの研究経過や成果について、実際の授業映像や演習を交えた研究発表を行いました。



参加者の声：

「どの研究員の発表にも説得力がありました。大変先進的で、参考になる研究です。研究のねらいと内容が焦点化されており、検証・分析がしっかりとされているという印象を受けました。各学級、学校の課題の解決につながるものだと思います。」

➤ プロジェクト研究発表

プロジェクト研究は、当センター所員が課の枠を越え、5つのグループ（授業力向上、マネジメント、インクルーシブ教育システム、情報教育、うきうきワクワク学級・HR経営）に分かれて、進めてきた研究です。学校現場で活かせる手立てやアイデアを体験しながら学び合う場となりました。

参加者の声：

「初めて参加しました。おもしろく、かつ、勉強になりました。参加したプロジェクトはすべて具体的な例示があり、分かりやすかったです。大学生や若い先生方もたくさん参加していて、活気があり、雰囲気がとても良かったです。『堅苦しくなく、楽しく学ぼう！』というアイデアがあちらこちらにありました。」



➤ 講演会

講演会では、京都大学大学院教育学研究科教授 西岡 加名恵 氏を講師としてお迎えし、『「資質・能力」を育成するパフォーマンス評価』と題して、新しい時代を生きるために必要な「資質・能力」を育成するために、パフォーマンス課題を取り入れることで、子供たちに「本質的な問い」を深く考えさせる、カリキュラムや授業の作り方についてお話を頂きました。また西岡先生より、青森県でもぜひ、御活用くださいということで、御自身の研究論文や書籍等が当センター図書資料室に寄贈されました。



参加者の声：

「西岡先生の研究にとっても興味があったので、今回の講演会、ありがたかったです。西岡先生についてはカリキュラム・マネジメントの観点で勉強していましたが、ポートフォリオなど評価の第一人者であることを知りました。授業に直結する多くのアイデアをいただいたのでこれから生かしていきます。」

➤ 各種展示コーナー

研究員研究・プロジェクト研究に関わる展示の他、高校生による平成29年度深い学び合同発表会ポスター展示、当センター所員による図書資料室にある書籍等の紹介ポスター展示、第16回青森市中学校文化連盟 技術・家庭科作品展、青森地方気象台による防災教育教材展が行われました。



各種協議会・研究発表大会

センターでは、毎年、都道府県、指定都市の研究所やセンターを対象に開催される研究協議会、研究発表会等に参加をし、各県、指定都市の取組について情報交換を行っています。

平成30年度東北・北海道地区教育センター協議会及び平成30年度東北地区教育研究所連盟「総会・教育研究発表大会」 in秋田

高校教育課 工藤 陽平

< 日時・場所 >

平成30年10月18日（木）～19日（金）
秋田県秋田市「秋田ビューホテル」

< 目的 >

加盟教育研究機関相互の連絡、提携を密にし、研究・研修活動の進展を図り、教育の振興に寄与する。

講演「バスケットで秋田を元気に
～ゼロからの挑戦～」

講師 秋田ノーザンハピネッツ株式会社
代表取締役社長 水野 勇気 氏

「動けば変わる」をモットーとしてバスケット王国秋田にプロチームをつくるまでの苦労や、「バスケットで秋田を元気にしたい」という熱い思いが伝わるお話を聴くことができました。

共通研究主題による研修会

分科会：1「学習指導に関する取組」※参加
2「生徒指導に関する取組」
3「情報教育に関する取組」

秋田県総合教育センターから、主体的・対話的で深い学びを通じた課題解決的な授業モデルの提案について発表があり、教科や学年の枠を超えて、生徒に身に付けさせたい力を学校単位で育成していく取組が紹介されました。

教育研究発表大会

分科会：1「教科部会」 ※参加 2「教科外部会」 ※当センター教育相談課 話題提供
3「情報教育部会」 ※当センター産業教育課 話題提供

岩手県立総合教育センターから、中・高外国語における資質・能力の「3つの柱」を総合的に育む授業の在り方について、山形県教育センターから、小学校英語教育に係る学校ニーズへの対応について、それぞれ研究発表がありました。山形県ではハンドブックを作成し、それを研修で使用することで小学校英語教育を推進する取組が紹介されました。

平成30年度 都道府県指定都市教育センター所長協議会 技術・家庭科分科会 in長野

教育相談課 澤田 基

< 日時・場所 >

平成30年9月27日（木）～28日（金）
長野県塩尻市「長野県総合教育センター」

< 趣旨 >

都道府県指定都市教育センター所長協議会の技術・家庭科教育担当者が技術・家庭科の内容や指導法について研究発表及び研究協議を行い、教育の充実を図る。

< 研究発表 >

研究主題「LEDライトを使用した水耕栽培実験」

発表者 青森県総合学校教育センター 教育相談課 指導主事 澤田 基



【LEDライトを使用した水耕栽培実験】

< 指導・助言 >

題材を設定するにあたっては、①指導要領に示された資質・能力を育成するものになっているか、②指導学年（カリキュラム・マネジメントの観点で）についてどうなのか、ということを押さえることを確認するとともに、技術分野の見方・考え方を働かせた事例を具体的に示してもらいながら指導・助言していただきました。

（文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官・生涯学習政策局情報教育課 教科調査官・
国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部 教育課程調査官 上野 耕史 氏）

< グループ協議 >

①「新学習指導要領完全実施に向けた、
技術・家庭科担当教員の指導力向上を目指す研修の在り方」
オンデマンド配信や指導計画のチェックリスト化、教育支援システムなど様々な取組や事例を知ることができました。

②「第3学年で取り上げる統合的な問題に関わる研修」

情報収集・発信、関係機関・大学との連携、免許外の先生方へ授業のモデルを示し模擬授業を行うなど他県での様々な取組についても知ることができました。



センターで収穫したブドウを振舞っていただきました。長野県では高校生がワインづくりもしているそうです。